

平泉の主題と段階的推薦の方向性

「政治・行政上の拠点」＝「仏教に基づく理想世界」

平泉は、12世紀日本の中央政権の支配領域と本州北部、さらにはその北方の地域との活発な交易活動を基盤として、本州北部の境界領域において、**独特の性質を持つ日本の仏教に基づき、理想世界の実現を目指して造営された「政治・行政上の拠点」。**

その範囲と構成資産については、今後の調査研究により明確化することが必要。

仏国土(浄土)を表現した建築・庭園・関連資産群

以下の2点の反映の結果として形成された独特の建築・庭園及びそれらの考古学的遺跡の事例。

- ① 日本古来の自然崇拜思想とも融合し、**独特の性質を持つものへと展開を遂げた日本の仏教**
- ② その中でも特に末法の世が近づくとともに興隆した**浄土思想**

(ii) 両者の反映の結果として形成された独特の事例群で、6～12世紀に中国・朝鮮半島から日本列島にかけて**建築・庭園の発展に影響を与えた重要な価値観の交流の所産。**

(iv) 仏堂及び一群の庭園は、それらの考古学的遺跡も含め、**建築・庭園の分野における人類の歴史の重要な段階を示す傑出した典型。**

(vi) 日本独特の仏教・浄土思想は建築・庭園群などの意匠・形態へと直接的に反映し、現世と来世に基づくその死生観は今日における平泉の宗教儀礼や民俗芸能にも確実に継承されている。

第1段階の推薦

第2段階の推薦

「**独特の性質を持つ日本仏教**」：日本古来の自然崇拜を基調とする神祇信仰とも融合しつつ、6世紀から12世紀にかけて法華経、密教、浄土教など多様な要素を包括・統合した独特の性質を持つものへと展開を遂げた**日本の仏教**のことを指す。そのような**独特の性質を持つ日本仏教**と、その中でも特に極楽浄土信仰を中心とする日本の浄土思想は、平泉の**建築・庭園の形成に重要な役割を果たした。**